

# 子ども図書研究室だより

2022.2.1 発行 NO.101

静岡県立中央図書館

<https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

## できごと

令和3年11月10日(水)、「令和3年度第28回静岡県図書館大会(オンライン)」第4分科会において、成蹊大学文学部日本学科准教授の大橋崇行氏に「学校図書館とエンタメ小説」という演題でお話しいただきました。本紙にてその一部をご報告します(2ページ)。また、この1年の間に発表された子どもの本に関する賞とその受賞作を一部ご紹介します(3ページ)。

## 「子ども図書研究室」をご利用ください！

「子ども図書研究室」では、児童書、絵本及び子どもの読書に関する参考図書を置いています。児童書・絵本の選択や内容、幼児期における本の手渡し方の研究などにご利用いただけます。また、各地域で子どもの読書活動を推進している公立図書館、学校図書館、地域の大人の皆さんの情報交換、交流の場としてもご利用いただけます。

- 場所：県立中央図書館1階
- 利用対象：15歳以上の大人(中学生を除く)
- 利用時間：午前9時～午後5時(火～金の午後2時～5時、日の午後0時半～4時は職員が在室。その他、2階総合案内カウンターへの申込みで開室いたします(要利用者カード))
- 団体利用：選書会等の会場としてご利用いただけます。時間は火～金の午前9時～午後5時まで(休日および休館日を除く)ですが、それ以外でも相談に応じます。※新型コロナウイルス拡大防止のため、利用人数の制限などを行っております。詳細は当館資料課図書班まで。
- 資料紹介：平成15年度以降に発行された児童書(コミック、参考書などは除く)を網羅的に収集しています。
- 研究書・雑誌：子どもの本や子どもの読書に関する大人向けの図書や雑誌を収集しています。

## 「新刊サロン」動画配信中！

当館子ども図書研究室では、毎月200冊から300冊の新刊を受け入れており、「新刊サロン」ではその中から職員が子どもの本の紹介をしています。これまで子ども図書研究室を会場に開催してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在はYouTubeで動画を配信しています。期間中はどなたでもご覧になることができます。第4回の配信は令和4年2月15日(火)午後5時まで行っています。第5回の配信は令和4年2月下旬を予定しています。

## 動画配信の様子



※動画の最後には、子ども図書研究室の紹介も行っています。あわせてご視聴ください。

【視聴方法】下記二次元バーコードまたは当館ウェブサイトでURLをクリック

【申込】不要

【お問い合わせ】静岡県立中央図書館 資料課

電話：054-262-1243

FAX：054-264-4268

Eメール：webmaster@tosyokan.pref.shizuoka.jp

県立中央図書館公式YouTubeチャンネルに移動します。※配信期間にご注意ください。→



## 【報告】大橋 崇行 氏 講演 『学校図書館とエンタメ小説』

ライトノベルを学校図書館に入れるかどうかは、担当者をいつも悩ませている。ライトノベルと、中学生・高校生の読書、学校や学校図書館との関わりについて、ご講演いただいた。

まず、近年の中高生の読書の傾向は、映画や漫画といった他のメディアに先に触れそこから原作を読むというもの、ゲームや漫画をノベライズしたもの、小説投稿サイトに投稿された小説を書籍化したものが増えている。ライトノベルはというと、現在の読者は30代から50代が主で、10代については漫画やゲームに親和性のある読者に限定されている。また、朝の読書などの活動によって不読率が改善している一方で、書籍ではなくウェブ小説をスマートフォンで読んでいる中高生がいることも留意したい。彼らは、クラスの友人や知人でなく同じ嗜好をもつネット上の仲間と情報を共有している。

その中で、一般文芸だがライトノベルの手法を取り入れた「ライト文芸」や、湊かなえといった大人向けに書かれたエンターテインメント小説も読まれるようになってきている。ただ、大人向けだからといって、様々な語彙や言葉の使い方を学んだりできるかというと、現代の小説は必ずしもそういう書き方がなされていない。読書を習慣化することには効果的であるが、学習として本を読ませたい場合は別の取り組みが必要である。つまり、娯楽としての読書と学習としての読書の切り分けである。

新学習指導要領における国語の「解説」では、読書とは、本を読むことに加え、何かを調べるために関係する資料を読むことが中心に据えられている。更に、授業では「書く」「話す・聞

く」に重点を置き、その前提となる「読む」については学校図書館などを利用する、といった内容となっている。したがって今後は、この「読む」を国語とつなげるにはどうしたらよいか、読んだ上でそれをどのように学びに結び付けていくかが重要である。

ここで学校図書館にできることは、まずは学習としての読書を支援することである。レファレンスに加え、学習につながる展示等を実施し、また調べ学習に対応できるよう国語科以外の教科とも連携する。効果的な事例として「ブッククラブ」「芋づる式読書」「ブックトーク」があるが、いずれも読んだ本の理解と、それを深める活動が伴う企画である。エンターテインメント小説についても、テーマを設定し、生徒たちがそのテーマでのつながりを読み取ることができるような展示や企画を行っていくとよいのではないかと。そうして生徒たちが本を読み進めていくようになれば、学習としての読書につながるものになるのではないかと。

【報告】田中 純子

(常葉大学附属図書館(水落))

※『令和3年度 第28

回静岡県図書館大会

記録集』より転載



静 岡山県図書館大会ではこの他、第2分科会で「絵本と鳥の巣の不思議～鳥の巣が教えてくれること～」(講師：鈴木まもる氏(絵本作家、画家、鳥の巣研究家))、第3分科会で「絵本から一人読みへのステップアップ～“自分から読みたくなる”を育てるために～」(講師：尾野三千代氏(元・和光大学非常勤講師、元・東京都府中市立図書館司書))と題した講演会などが行われました。

## 子どもの本に関する賞

この1年の間に発表された子どもの本に関する受賞作をご紹介します。大賞メインのご紹介となりますが、主催団体の公式発表では、次点となった作品や、別の部門の受賞作品が掲載されている賞もあります。大賞以外の賞を知ること、また新たな発見があるのではないのでしょうか。

紹介する賞のうち、ニューベリー賞は1922年から、カーネギー賞は1936年からと長く続く賞もあります。これらの賞の過去の受賞作を見ると、現在もなお子どもに愛され、読み継がれている作品も多く見られます。過去の受賞作は、主催団体のウェブサイトの他、『児童の賞事典』（日外アソシエーツ刊 2009年）や『海外文学賞事典』（日外アソシエーツ刊 2016年）などで確認することができます。

種 類	2021年 受 賞 作 品
コ ー ル デ コ ッ ト 賞	『We Are Water Protectors』 Michaela Goade/絵 (Roaring Brook Press) 未邦訳
ニ ュ ー ベ リ ー 賞	『When You Trap a Tiger』 Tae Keller/著 (Random House) 未邦訳
ケイト・グリーンウェイ賞	『Small in the City』 Sydney Smith/著 (Walker Books Ltd) 邦訳『このまちのどこかに』 せな あいこ/訳 (評論社)
カ ー ネ ギ ー 賞	『Look Both Ways』 Jason Reynolds/著 (Knights Of) 未邦訳
日 本 絵 本 賞	大 賞:該当なし 絵本賞:『こどもたちは まっている』 荒井 良二/著 (亜紀書房) 『このかみなあに?:トイレトペーパーのはなし』 谷内 つねお/さく (福音館書店) 『ぼくがふえをふいたら』 阿部 海太/作 (岩波書店) 翻訳絵本賞:『虫ガール:ほんとうにあったおはなし』 ソフィア・スペンサー/文 マーガレット・マクナマラ/文 ケラスコエット/絵 福本 友美子/訳 (岩崎書店)
坪 田 譲 治 文 学 賞	『もうひとつの曲がり角』 岩瀬 成子/著 (講談社)
講 談 社 絵 本 賞	『さくらの谷』 富安 陽子/文 松成 真理子/絵 (偕成社)
産 経 児 童 出 版 文 化 賞	『やとのいえ』 八尾 慶次/作 (偕成社)
日 本 児 童 文 学 者 協 会 賞	『拝啓パンクスノットデッドさま』 石川 宏千花/著 (くもん出版) 『万葉と令和をつなぐアキアカネ』 山口 進/著 (岩崎書店)
日 本 児 童 文 学 者 協 会 新 人 賞	『ハジメテヒラク』 こまつ あやこ/著 (講談社)
三 越 左 千 夫 少 年 詩 賞	『うたうかたつむり』 野田 沙織/著 (四季の森社)
日 本 児 童 文 芸 家 協 会 賞	「恋ポテ」シリーズ 神戸 遥真/著 (講談社) 『雷のあとに』 中山 聖子/著 (文研出版)
児 童 文 芸 新 人 賞	『みつきの雪』 眞島 めいり/著 (講談社) 「保健室経由、かねやま本館。」シリーズ 松素 めぐり/著 (講談社)
児 童 文 芸 ノ ヲ フ ィ ク シ ョ ン 文 学 賞	『災害にあったペットを救え 獣医師チーム VMAT』 高橋 うらら/著 (小峰書店)
小 学 館 児 童 出 版 文 化 賞	『うしとざん』 高島 那生/作 (小学館)
ひ ろ す け 童 話 賞	『きみひろくん』 いたう みく/著 (くもん出版)
五 山 賞	『三月十日のやくそく』 早乙女勝元/脚本 伊藤秀男/絵 (童心社)
小 川 未 明 文 学 賞	『屋根に上る』 かみや としこ/著 (学研プラス)
野 間 児 童 文 芸 賞	『わたし、パリにいったの』 たかどの ほうこ/著 (のら書店)
けんぶち絵本の里大賞	『ねぐせのしくみ』 ヨシタケ シンスケ/作 (ブロンズ新社)
日産童話と絵本のグランプリ	童話の部:『ながみちくんがわからない』 数井 美治/作 (BL 出版) 絵本の部:『マロングラッセ』 だるま 森/作 (BL 出版)
静岡書店大賞児童書・新作部門	『パンドロぼう vs にせパンドロぼう』 柴田 ケイコ/作 (KADOKAWA)
静岡書店大賞児童書・名作部門	『11 ぴきのねこ』 馬場 のぼる/作 (こぐま社)



知識

『きのこのこのこのふしぎのこ』  
ひさかたチャイルド  
2021年8月

標題紙を開くと、見開きいっぱいいきのこ料理が大集合。おいしそうなきのこ料理に誘われて、案内役の二人の子どもがきのこの不思議を紹介してくれる。

森の中にはカラフルな色や形をしたきのこ、暗いところで光る毒きのこもある。「つちぐり」きのこが胞子を飛ばす瞬間や、真っ白な形をした「たまごたけ」が真っ赤に成長していく姿には驚かされる。食べ物が自然の恵みであることに気付くとともに、自然界の不思議や多様性を感じる事ができる写真科学絵本となっている。

【小学校低学年から】(増田)



絵本

『おじさんのぼうしはどこいった?』  
ジョアン・シドセツノ  
ぶん  
フリッツ・ツェバル／え

やすだ ふゆこ／やく 出版ワークス  
2021年9月

農場のおじさんは、古くて茶色い自分の麦わら帽子が大のお気に入り。ところがある日、強い風が帽子をどこかへさらっていった。探しても見つからないので、動物たちに聞いて回ると、帽子は見なかったが、丸くて茶色い巣穴や山などは見たという。そして最後にことりやに聞いてみるとそこには…。

リスやネズミ、ハエ、ヤギなど動物によって帽子の見え方が違うのが楽しい。あたたかみのある絵がお話の雰囲気や馴染んでいる。

【幼児から】(安田)

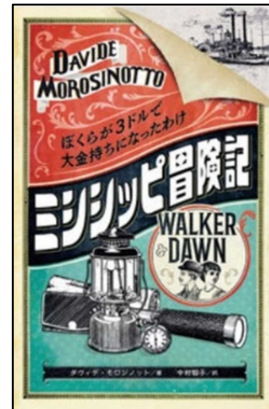


読物

『くしゃみおじさん』  
オルガ・カブラル／作  
山村 浩二／絵  
小宮 由／訳  
岩波書店  
2021年7月

何不自由なく暮らしていたうさぎとねこといぬ。ある日通りかかったおじさんのふしぎなくしゃみで、3匹のじまんのものが入れ替わってしまう。もとに戻してもらうために追いかけると、くしゃみの被害者たちがどんどん増える。思わず笑ってしまうへんてこな被害だが本人にとっては切実な問題。はたして彼らは無事にもとの姿に戻れるのだろうか？

次々と現れる被害者にテンポよく読める。読んだ後、おじさんのくしゃみを再現しようとする子がいるはず。 【小学校中学年から】(水井)



読物

『ミシシッピ冒険記』  
ダヴィデ・モロジノット／著  
中村 智子／訳  
岩崎書店  
2021年7月

1904年のアメリカが舞台。テ・トワ、エディ、ジュリー、ティトは、バイユーと呼ばれるミシシッピ川の河口地帯で暮らしていた。ある日4人は3ドルが入った缶を釣り上げる。カタログ通販でピストルを注文するが、届いたのは壊れた懐中時計だった。その時計に高額な褒賞金がかけていることを知った4人は、親に黙ったまま、カタログ会社のあるシカゴを目指し出発する。スリルある冒険譚で構成も工夫されている。人種差別や貧困等、社会的な問題もさりげなく描かれる。 【中学生から】(山下)